

◎全体に共通する意見				
①新型コロナウイルス感染症に関する各種支援について				
コロナに負けないための産業や事業者に対する継続した支援が必要である。本指針とコロナ対策は切り離して考えずに、並走させた方がよい。				
②SDGs推進について				
本指針の関連事業について、”SDGs推進”という新たな視点を取り入れることで、豊島区が掲げる「国際アート・カルチャー都市」の実現に向けて着実に前進する。				
◎各指針に対する委員からの意見				
委員の意見【件数】	委員名 (非公表)	指針本編との関連		
		該当ページ	取組の方向性	関連キーワード
指針1:産業振興に向けた都市基盤づくり【1件】				
豊島区が住みたいまち、住み続けたいまちになるように定着率が上がる取組みを行っていく必要がある。		P22	1-④ セーフコミュニティの推進	■事業者との連携を強化し、生活の安全と健康の質を高めるまちづくり活動の推進
指針2:中小企業者の経営基盤強化【5件】				
業態転換へのアドバイス等、現状に即した柔軟な対応が求められている。		P22	2-① 相談機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ■区内企業や個々の商店が抱える事業承継への対応 ■多様化する経営課題への対応 ■としまビジサポのワンストップサービスに加え、土業・産業団体・金融機関・東京都他の公的機関・教育機関・民間企業等との連携強化 ■連携団体の強みを活かした効果的・効率的な事業者支援を展開するため、豊島区はプラットフォームとしての役割も担う。
区内廃業者の原因分析、事業承継税制特例措置の周知不足に関して税理士会等との連携強化を図るべきである。		P22	2-① 相談機能の充実	
本指針は事業承継に関する記載が少ないため、もう少し盛り込んだ方がよい。		P22	2-① 相談機能の充実	
先代が次世代に事業承継をしやすい環境づくりを区も全面的にサポートした方がよい。		P22	2-① 相談機能の充実	
事業承継がうまくいかずに困っている事業者が大勢いるという事実を知られていないことが問題である。企業が気軽に相談できる体制を整える必要がある。		P22	2-① 相談機能の充実	
指針3:起業者支援の強化【5件】				
女性起業家への支援はとても重要な視点だが、起業支援を必要としているのは、男性も同じという認識を改めて持つことが重要であると思う。		P24	3-① 相談サポート体制の整備	なし
起業家がオンラインに不慣れな印象を受けている。オンライン活用について学ぶ場を区としても提供した方がよい。		P24	3-② 経営ノウハウ獲得の支援	■セミナーや勉強会を実施し、起業や経営の安定化を実現するための知識やノウハウの習得
業種別やシニア層向けの起業セミナーを開催した方がよい。		P24	3-② 経営ノウハウ獲得の支援	
女性のための起業塾に参加している方々は、シェアオフィスへの関心が高いため、施設を拡充することが望ましい。		P24	3-③ 起業チャレンジ施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ■としまスタートアップオフィスを開設 ■事業の成否を試すことのできるチャレンジの場の提供
スタートアップオフィス利用枠が少なく、回転率も悪いため、定員増の検討が必要である。		P24	3-③ 起業チャレンジ施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ■としまスタートアップオフィスを開設 ■ニーズの高い店舗や作業場の確保における支援

指針4: 商店街の活性化と地域コミュニティづくり【4件】				
区内の商店街において、近年チェーン店が急増している。減少傾向にある小さな商店はどのように活気づけられるかが重要である。		P25	4-① 輝く店舗づくり	■個々の商店が消費者にとって魅力的な商品・サービスを提供できるよう時流にあったセミナーの実施、売上拡大相談、専門家派遣などの支援を推進
事業承継について、男性の多くがサラリーマンになるため、定年後に承継することは難しいと思う。そのような場合は無理に承継せず、業態が変わっても他の事業者を入れる等、空いてしまった場所を区の活性化のためにどのように活用するかという視点も重要である。		P25	4-② 地区特性を活かした商店街づくり	■事業承継間など、新たな時代のニーズに沿った情報提供を強化し、経営者の意欲的な創意工夫を促す
特に池袋駅周辺は飲食店が多いため、これらの店舗向けの助成制度を新設する等、新しい事業環境に対する投資が必要であると考え。		P25	4-② 地区特性を活かした商店街づくり	
指針5: 文化と観光による産業振興【2件】				
国外に向けた情報発信の強化や外国人留学生等との交流の場を充実させた方が良い。		P27	5-② 多様な来街者の受け入れ	■商店街などと連携したインバウンド対応力の強化 ■観光客の利便性向上や安全・安心に観光のできる環境を整備
近年、インバウンドのニーズは「購入」から「体験」に移行しているため、区でも経験ができる取組みを推進し、区民の方に講師になっていただくような企画も必要であると感じた。		P27	5-② 多様な来街者の受け入れ	
指針6: 産業を支える人材の育成【1件】				
お仕事体験を商店街で行うと良い。キッズニアではなく顔の見える商店街で行うことで商店街の店舗を知ってもらいきっかけになるのではないのでしょうか。		P25	6-③ 次世代の育成	■将来の区内事業者への就労意識の啓発

その他：指針に分類できなかった意見【8件】	委員名	指針本編との関連	
		関連する指針NO	備考
日本の99%は中小企業である。他の自治体と差別化した、豊島区ならではのオリジナリティある施策を展開した方が良い。		指針2：中小企業の経営基盤の強化 指針3：起業支援の強化	
副都心再生やトキワ荘の復元等、様々なまちづくり施策を展開しているが、区民だけでなく、区外や外国人にも広く周知すべきである。PRIは池袋駅周辺企業と連携すると効果的である。		指針1：産業振興に向けた都市基盤づくり	
子育て世代は情報発信力に長けている。事業周知を行う際は、これらの方が集まる施設等を活用すると良い。		全指針共通	指針2：取組の方向性2-③「情報発信の強化」との記載あり。
行政として広報やSNSを活用した情報発信を強化すべきである。情報発信はスピード感が非常に重要である。いかにエンドユーザーまで伝えるかが大切である。			
インバウンド産業の衰退は、区内産業全体に大きな影響を与えているため、今後何らかの対策が必要になってくる。		指針2：中小企業の経営基盤の強化 指針4：商店街の活性化と地域コミュニティづくり 指針5：文化と観光による産業振興	
旅館業や民泊等、インバウンド向け企業の撤退が相次いでいる。これらの企業に対する特にソフト面の施策を充実させて方が良いのでは。			
池袋駅周辺は中国企業が多く、これらと今後どのようにかかわっていくかという点は、今後区が発展するための大切な要素と考えているため、指針に盛り込むと良いのではないのでしょうか。			
本指針は「商」が中心で、「工」に関する記載が少ないと思う。豊島区は印刷業があるため、指針にもう少し盛り込んで良いと思う。		全指針共通	